

# みんなの活動だより

発行: MISHOP広報部会

2025.3

88

## 国際理解講座「アフリカ少年が日本で育って考えたこと」開催



1月25日(土)午後、三鷹駅前コミュニティ・センターで第88回国際理解講座「アフリカ少年が日本で育って考えたことー多様な人が共生する社会とはー」が開催され、53人が参加しました。講師は1984年、カメルーン生まれの漫画家、星野ルネさん。『まんが アフリカ少年が日本で育った結果』ほかを出版し、毎日小学生新聞への執筆、テレビ出演や講演など幅広く活躍です。「アフリカ少年の日本生活」「カメルーンでの体験」「多様な視点の旅をする」などのテーマで、自作漫画の映像を使いながらの体験に基づく話は心に響き、好評でした。

日本から猿の研究にカメルーンにやって来た男性が星野さんの母親と結婚したのを機に、星野さんは4歳で来日し、兵庫県姫路市で育ちました。子どもの頃から両国を往来してトリリンガル(日・仏・英)になりました。

カメルーンはアフリカ中部に位置し、国土は日本より広く、縦長で南北の気候が多様な点は日本に似ています。公用語は英仏語ですが、英語は北部で話すだけで、多数は仏語と部族の言葉を使います。星野さんも仏語を使用していました。

日本の小中学校では、肌の色が違い言葉も不自由で差別もあったかもしれませんが、保育園時代からの友達がかばってくれました。「アフリカ系の人足が速い、歌や踊りが大好き」というイメージがありますが、星野さんはどちらかというとインドア派で、カメルーン人は歌や踊りより、静かな人が多いと言います。アフリカ

といえばジャングル、野生動物の宝庫、日本といえば大都会や機械化が進んでいると思いがちですが、カメルーンにも都会があり田舎もあります。都会育ちの母親は日本の動物園で初めてキリンを見たそうです。アフリカは貧しくて何でも遅れているだろうというのは偏見です。「イメージは現実とほとんど一致しません」。

保育園仲間と共に遊び、喧嘩した体験を通じて星野さんを理解したように、触れ合うことや共通体験を通じて互いの理解は深まります。偏見は誰にもあるのでコミュニケーションが大切です。肌の色やどこの国から来たかということだけでなく、一人の人間に会いたいとも思っている、言葉が話せないから話しかけられないではなく、言葉は通じなくても何とか伝えようとする気持ちこそ重要で、それが誰をも疎外せず、誰をも理解することにつながると思う、と語っていました。

(会員・山根正彦)

### 【感想シートから】

- 日本人は「安全」「安心」に重きを置いていて、ルネさんのお母様は「誇り」「勇気」を大切にしていることが印象深かったです。私は夫の仕事で夏から3年間アフリカのルワンダへ行くのですが、今日の講演を通して「勇気」をもらえて不安感が減ったように思いました。ありがとうございました。2歳の子どものルワンダへ連れて行くのですが、言語や新しい環境での気持ちの持ちようについても、とても学びがあってよかったです。
- 外国にルーツをもつ市民として、日本の生活で感じたことをユーモアたっぷりに話していて、非常に面白く、勉強になりました。一つ一つのエピソードが印象的でしたが、完璧に伝えることよりも伝えようとする気持ちが大切というメッセージが特に心に響きました。ぜひ漫画を読んでみます。



A lecture on international understanding, "What an African Boy Thought About Growing Up in Japan: What a Society Where Diverse People Can Live Together," was held on the afternoon of Saturday, January 25 at Mitaka Ekimae Community Center with 53 participants. The lecturer was manga artist Rene Hoshino, who was born in Cameroon in 1984 and raised in Japan from the age of four. Using footage of his own manga, he spoke on themes such as an African boy's life in Japan and taking trips with diverse perspectives.

# MISHOP ラウンジで 「防災出前講座—地震がきたら！」実施

“Disaster Preparedness Lecture —In Case of Earthquake!” Is Held

「防災出前講座—地震がきたら！」が2月4日(火)午後、「MISHOP ラウンジ」で開催され、ウクライナ、中国、ベトナム出身の外国籍市民8人を含む36人が参加しました。講師を務めたのは元MISHOP 事務局 長で現在、「NPO 法人 Mitaka みんなの防災」の大倉 誠さん。三鷹市防災課の職員2人も出席しました。



講座では日本は地震国であること、地震が起きたらまず何をするか、揺れが止まったら何をするか、お助めの備蓄品などを映像と実物を見せながら分かりやすく話しました。参加者は6つのグループに分かれて、家の中で地震に遭遇したらどうすれば良いか、地震後も家で生活を続けるためには何を準備しておけば良いかなどを話し合い、グループごとに発表しました。大倉さんは「大きな地震が起きたら慌てずにまず自分の体を守ってほしい」と強調していました。

講座終了後、参加者にはその場で作られたアルファ米の炊き込みご飯、簡易トイレ、三鷹市防災マップが配られました。

## 【感想シートから】

### 外国籍市民

●防災出前講座では、地震が起きる時の避難や準備について学びました。防災について考える良い機会になりました。(中国)

●地震の際の行動について有意義かつ必要な情報をありがとうございました。(ウクライナ)

●自宅避難で必要なものを教えていただきまして、ありがとうございました。(中国)

### 日本人ボランティア

●大変分かりやすい講義でした。特に外国人の方には参考になったと思います。日

本人にとってもいくつか重要な気づきがありました。

●知っているつもりでも知らないことがあることに気づいた。在宅避難者向けの支援があるのがわかったのがとても心強かった。

On the afternoon of Tuesday, February 4, 36 people, including 8 foreign residents from Ukraine, China, and Vietnam, participated in the “Disaster Preparedness Lecture—In Case of Earthquake!” Mr. Makoto Okura of the NPO Mitaka Minna no Bosai (Everybody’s Disaster Prevention) talked about how Japan is an earthquake-prone country, how to protect oneself in the event of an earthquake, and recommended emergency supplies to keep on hand.



「防災出前講座」に参加し、世界で起きた地震の9割は日本で起きたものと聞いて驚きました。関東大震災の際に三鷹では井の頭弁財天堂と野崎八幡社拝殿が倒壊したと言われています。2011年3月11日の東日本大震災では三鷹市は震度5弱で、軽傷8人、火災1件、建物損壊70件、屋根破損45件、塀など破損22件などの被害がありました。「三鷹市防災マップ」には地震発生時の一時避難場所や広域避難場所などのほか、地震のための備え、行動などが掲載されています。市役所などで配布しています。

It is said that 90% of the world's earthquakes occur in Japan, and that the Inokashira Benzaiten Hall and the Nozaki Hachiman Shrine in Mitaka collapsed during the Great Kanto Earthquake of 1923. The 2011 Great East Japan Earthquake hit Mitaka City with an intensity of 5 on the Japanese scale, causing 8 minor injuries, 1 fire, damage to 70 buildings, and other losses. The “Mitaka City Disaster Prevention Map” includes information on temporary evacuation sites and wide-area evacuation sites in the event of an earthquake, as well as earthquake preparedness and actions. The map is distributed at the City Hall and other locations.